



# 神奈川県東ロータリークラブ

## KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

2020-2021年度 第34週報 No. 2144 2021年(令和3年) 6月18日 第2144回 例会記録 6月25日発行

### 本日〈6月25日〉のプログラム

- ◆ 斉唱 「手に手つないで」
  - ◆ 献立 週替わり弁当
  - ◆ 卓話 「ガバナー年度を振り返って」
- 国際ロータリー第2590地区 ガバナー 吉田 隆男 様



写真提供 小池 将夫

**司会** 友添 辰哉 副幹事

**会長報告** 山本 芳弘 会長

- ・ 6月度定例理事会報告
- ・ 今年度、RLI 卒後コースを修了されました田中龍太郎会員と赤堀伽寿一会員に修了書が届いておりますのでお渡しします。

**点鐘** 山本 芳弘 会長

**斉唱** 「それでこそロータリー」  
ソングリーダー 河野 明光 会員

**四つのテスト** 茂木 知子 職業奉仕委員長  
(第1例会のみ)



2020-2021年度 R1 会長 ホルガー・クナーク



ロータリーは機会の扉を開く

第2590地区 ガバナー 吉田 隆男

会 長	山本 芳弘	会 計	白井 康夫
会長エレクト	小山市 康	副 会 計	渡邊 淳
副 会 長	赤堀 伽寿一	S A A	佐藤 勝彦
副 会 長	植田 清司	副 S A A	古澤 一憲
幹 事	田口 健太郎	副 S A A	月山 勇
副 幹 事	友添 辰哉	クラブ会報	池田 広樹

**例会日** 毎週金曜日 0:30 ~ 1:30 PM (第5金曜日 6:00 PM)  
**例会場** ホテルキャメロットジャパン  
**URL** <http://www.kanagawahigashi.com/>  
**E-mail** kerc@beach.ocn.ne.jp

**事務局** ホテルキャメロットジャパン内  
 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3  
 TEL: 045-314-3900 FAX: 045-314-3555  
**創立記念日** 昭和51年5月29日

## 幹事報告

田口健太郎 幹事

- ・本日、例会終了後に今年度のクラブ協議会を開催致します。出席義務者の方、よろしくお願ひ致します。
  - ・次週は、次年度ガバナー補佐公式訪問となります。例会終了後に桑原ガバナー補佐にご同席頂き、次年度のクラブ協議会を開催致します。出席義務者の方は必ずご出席の程よろしくお願ひ致します。
- また、17:30～ ホテルキャメロットジャパン 5F ジュビリーⅡにて今年度の慰労会を開催致しますので、ご出席のほどよろしくお願ひ致します。

山本 登君 変な天気、梅雨？夏？

河野明光君 月山さんの紹介日であれば出さない訳にはいきませんネ！

植田清司君 今日は梅雨晴れです。暑いです。1回目ワクチン接種しました。もう飲めるのかな？

池田広樹君 年度末調整でお願いします。

北村大輔君 山本会長、赤堀副会長、植田副会長、田口幹事、お疲れ様でした。

月山 勇君 今年度例会も今日を含め、あと2回となりました。確定申告有無にかかわらず、年末調整をよろしくお願ひ致します。

## 誕生日祝

伊東 英紀 会員（6月24日）



6月18日	8件	39,000円
本年度累計		1,849,870円
年度目標進捗状況		-17%

## 年度末挨拶

◆会長 山本 芳弘



今年度を振り返ってお話をさせていただきます。

ご承知の通りに今年は新型コロナウイルスの蔓延に伴いまして通常の恒例行事もほとんど行えない状況でした。7月の始まりにはここまで制限が強くなるとは、にわかには信じられませんでした。今年の初めから緊急事態宣言が発出され、2か月間にわたり例会すら開けない状況でありました。

今年度のクラブテーマとして、「いまできることから」を掲げさせてもらいました。こんな状況の中であっても、ロータリー活動の中ですべきことを模索して実践していきたいと考え、理事役員の方々をはじめ会員の皆さんにご相談、検討を重ねていくつかの事業を行うことができました。

そんな中で地区のプロジェクトが立ち上がり、「コロナ禍における救援活動」の旗印のもと神奈川県内の小学校23校に、卓上ディスペンサー・消毒アルコール・フェイスシールドを配布することができました。

## 出席報告

横溝 亘 出席委員長

会員総数	52名	(31+21)名	
出席会員数	43名	(25+18)名	
出席率	87.76%		
ゲスト	0名	ビジター	0名
前回補正後	91.84%	前々回補正後	93.84%

## スマイルボックス

月山 勇 副SAA

伊東英紀君 結婚祝い、ありがとうございます。

山本芳弘君 本年度も残すところ2回となりました。クラブ協議会が続きますが、皆様、よろしくお願ひ致します。

春から夏にかけて、日本全国に飛来して子育てをする「ツバメ」。  
“チュピッ”（土食って虫食ってしゅーい）などと鳴き、8月中旬から10月にかけて東南アジアに帰ってゆく。

【写真提供 小池 将夫 会員】



この事業を第4グループの会長・幹事会で報告したところ、多くのクラブからお褒めの言葉をいただくことができ、たいへん嬉しい思いをさせていただきました。

また、この2年間は恒例となっておりました「神奈川区民まつり」も中止となりバザーも募金活動もできずにおりました。そこで、先日回収いたしました「奉仕の募金箱」の設置を可能な会員さんをお願いいたしまして、恒常的に広く募金を行える環境を整えることができました。今回お預かりいたしました募金は、先日の理事会にて国際奉仕の一環としてOWOPの活動援助と、マレーシアストリートチルドレンの救援に充当させていただきました事が決まりました。

例会においては、ピアノやチェロの演奏を取り入れ優雅な音色を楽しむことができましたし、親睦活動委員会の発案で抽選会をしてもらいました。例会の半分は卓話となるわけで重要な研鑽機会であります。プログラム委員会では東京の緊急事態などで当初の卓話者がキャンセルとなったりでご苦労をしていただきました。それでも、会員さんの扶助もあり有意義なお話を聞かせていただく事ができました。

今年度は、吉田会員のガバナー年度でもあり地区大会が予定通り行えていれば、会員さんの士気もあがり、益々の結束をはかれたであろうと思うと少し残念ではありましたが、吉田ガバナーには殺人的なスケジュールを務めあげられ誠にお疲れ様でございました。また加藤代表幹事をはじめ地区のお手伝いをされた会員の皆様にもたいへんお疲れ様でした。

今年度当初をお願いいたしました、当クラブから新型コロナウイルスの罹患者を出さないという目標は達成されそうです。皆様の感染予防とその実践に心から敬意を表します。

最後に、残念ながら今年度の終わりで5名の方が退会されます。それぞれにご事情のある所と存じますが、機が熟しましたらまたご一緒できれば有難いと思います。

今年度の運営にご協力賜りありがとうございました。

#### ◆副会長 赤堀伽寿一



本年度を振り返って。まずは山本会長、田口幹事、一年間お疲れ様でした。また吉田ガバナー、加藤地区幹事お疲れ様でした。

本年度は副会長という立場でクラブに関わってきました。前半の半年間は植田副会長が吉田ガバナーの公式訪問の同行に携わっていたので、とても不安でした。

このコロナ禍で山本会長の掲げたテーマ『今、できることから』を頭に副会長の立場で何ができるかを活動してきましたが、自分では何一つできませんでした。

また地区の副幹事も行っていたので、他のクラブが今どのような活動をしているのかを知る事ができ、神奈川東が本当に素晴らしいクラブである事を改めて知る事ができました。

Zoomやハイブリット形式で、例会を行うクラブ、休会するクラブ、色々と見てきました。そんな中でも今までと同じ例年同様の例会を進めてきた我がクラブは本当に素晴らしいクラブです。

ロータリークラブとは倫理学、人間学を学ぶ事ができる、その中の人間学から、生きることを学び、生きるイコール健康、健康を保つ為には人とのつながりや交流が大切であり、それが出席率や出席につながり、出席することから、親睦が生まれ、親睦から奉仕活動、それがまたロータリークラブの活動に。と思います。

まだまだ大変な状況が続きますが、これからも宜しくお願い致します。一年間お疲れ様でした。

#### ◆副会長 植田 清司



本年度、山本会長・田口幹事のもと、副会長を務めさせていただきました植田です。

コロナで始まりコロナで終わった一年ではありましたが、山本会長のクラブテーマ『いまできることから』そして吉田ガバナーのテーマ『ためになる魅力あるロータリー』を念頭に置いて活動をして参りました。コロナ禍の中ではありましたが、我が神奈川東RCにおかれましては、緊急事態宣言中以外はなんとか例会は通常通り行なう事が出来ました。

また、ガバナー訪問を通じて多くのクラブの例会に伺い、改めて我がクラブの素晴らしさを再認識した一年でもありました。

最後に、皆さま、この一年ご協力を頂きましてありがとうございました。

#### ◆幹事 田口健太郎

御存じのとおり、日本初のロータリークラブは100年前の1920年に創立され現在100周年を迎えましたが、1918年-1920年にスペインかぜが世界的に大流行した時でもありました。



## ◆会計 白井 康夫



まさに新型コロナが「100年に一度」と言われる所以でありませんが、今後のロータリーはまたもパンデミックから始まりました。

この新時代におけるロータリアンの使命は、まずは罹患を最大限防止しロータリーの持続性を保つ事ことです。身体的・経済的危機の中、まずは命あつての奉仕活動ですので、クラブテーマである「いまできることから」奉仕活動に努めて参りました。

今年度のクラブ運営における幹事としての最優先課題は、まず「会員皆様の健康と安全」を守ることです。平時ではなく感染症有事の今、最優先されるべき課題は会員皆様のコロナ罹患防止でありました。

ロータリークラブは他の団体と比較して基礎疾患を持つ割合が高く重傷化率も高いため、けっして油断する訳には参らず、コロナ禍の収束と終息は「予防ワクチン・治療薬」の登場まで続きますので、それまでの間、ロータリーの活動においてはクラスター発生の予防に努め、国・県・ロータリーの感染症対策を踏まえながら各事業の在り方についても判断し、可能な範囲内で最大限の奉仕活動を展開する必要性がありました。

また、本年度はガバナー年度という事もあり、ガバナー輩出クラブの罹患による休会は避けねばなりません。ロータリークラブの持続性を最優先に考慮したおりました。

そのような中、吉田ガバナーや加藤地区幹事は献身的な活動に精励され、その行動量により地区の取り纏めが行われた事は感謝しか御座いません。

地区大会もオンラインによる開催となりましたが、けっして後ろ向きではなく前向きな大会として企画・運営された事により、再生回数は日本一を数えております。

例年通りであれば“あつという間の一年”と感じるところですが、本年度は例年通りとは行かず、常に日々変化する状況に対応するため気の張る毎日の連続であり、“やつと一年”という心境です。

しかしながら、会員皆様の御協力と心掛けにより、一人の陽性者も記録せずに一年間を終えた事は、何にも代えがたい価値でありました。

また、神奈川東のメンバーで助け合い・支え合いながら、この暴風雨をやり過ごし「好意と友情を深め」「みんなのためになる」会員皆様の結果は、“雨降って地固まった”という年度終わりになりました。

あらためて御礼申し上げ、御挨拶に代えさせていただきます。

2020年度も年度末を迎えました。今年度はコロナ禍という状況におきまして、当初の予算とは異なる実績を示しているという側面はございますが、会計収支のバランスの点ではおおむね当初の予算の数値を大きくはずれることなく推移致しました。

来る2021年度においても新型コロナウイルスによる影響は続くものと思われまふ。このような状況下で如何に会計収支のバランスをとっていくかということにつき注力していきたいと思ひます。

来年度も引き続き会計を担当する予定であります。今年度のご理解とご協力に深く感謝を申し上げますとともに、来年度もどうぞよろしく御願ひ申し上げます。

## 第2回クラブ協議会開催

6月18日（金）例会終了後に、今年度最後のクラブ協議会を開催致しました。各委員会より、1年間の苦労話や成果についての報告が行われました。



## ロータリーニュース

### ロータリークラブが難民の自立を支援

難民の受け入れ国は、新しい環境への難民の溶け込みという課題に直面しています。

欧州では、若い難民への支援を通じて手に職がある人材の育成というニーズを満たしており、スイスでも複数のロータリークラブがこのような取り組みを行っています。

スイスでは2018年以来、安全な場所を求めてやってくる難民の数が減る一方で、手に職をもたない未成年による難民申請数は増加しています。これを受け、複数のロータリークラブが合同で結成した「ROBIJ」と呼ばれるグループは、チューリッヒにやってくる若い難民を対象とした職能訓練を支援し、実習や見習いを通じて手に職をつけることで長期的に国に溶け込めるようサポートしています。

エイドさんも、そのような若者の一人です。14歳で、紛争下の祖国アフガニスタンからたった一人で逃れてきたエイドさんは、自分の小さなオートバイ修理店を売り払い、そのお金の一部を親兄弟に渡した後、8カ月半にわたる避難の旅に出ました。

「最初の2カ月はイランに滞在し、れんが職人として働きました。しかし、イランでの状況も安全とはいえず、アフガニスタンとあまり変わりませんでした」とエイドさんは言います。そこで彼は、トルコ経由でヨーロッパに行くことを決意し、約60人の難民たちとともに7メートルほどのゴムボートに乗り込みました。しかし、海の真ん中でエンジンが故障。ボートの操縦者は修理方法を知りませんでした。「幸い、オートバイ修理工としての知識があったので、エンジンを直すことができました」。同乗者たちの命を自分が救ったという事実には触れずに、エイドさんは淡々と語ります。ギリシャや他のバルカン諸国、ドイツを経て、2015年12月、やっとスイスにたどり着いたエイドさんは、最初は難民向けの居住施設に滞在し、言語研修を受けたり、学校に通ったりしていました。その後、ROBIJと出会いました。

チューリッヒ・シティ・ロータリークラブの会員、マリアンヌ・ホプシュさんはこう説明します。「ROBIJは、職場実習や職能訓練のワークショップを監督しているいくつかの団体を支援しているほか、企業や工場でのキャリアデーを実施しています」。ホプシュさんは、ROBIJの発起人であり、現在は同グループの会長です。この活動を通じて、若い難民たちが幅広いキャリア、特にスキルが必要とされる仕事につくだけでなく、新しい文化に溶け込むのを助けています。

スイスでの職業の多くは、難民たちにとって未知の分野です。キャリアデーには50名ほどの若い難民たちが企業を訪問し、様々な職業について社員や研修者から具体的な説明を受けます。「研修者や企業の幹部たちとの直接的な交流が重要です。このような交流によって、偏見や互いへの不信感が解かれ、職場実習や見習いへの機会の扉が開かれます」とホプシュさん。

設備エンジニアリングの企画会社のオーナーであるアンドレアス・リュグさん（チューリッヒ・トゥリクム・ロータリークラブ会員）は、このコンセプトに惹かれ、すぐに参加しました。同社の社員たちもこれに共感しました。「4人の難民のためにすぐにキャリアデーを実施して、当社での仕事について説明し、一緒にランチを取った後、工事現場を見学してもらいました」とリュグさん。直接会うことで、企業側にとっても、好奇心や意欲、才能のある人材を直接見つけるチャンスになると言います。「若い難民たちが体験した壮絶な旅について知り、この問題への意識が高まった」とリュグさんは話します。知

り合いの会社に声をかけ、訪問した若者の一人がそこで電気技師の見習いとして働けるよう手助けしました。

アフガニスタン出身のマリドさん（19歳）にとっては幸運としかいえませんでした。高校進学を希望するもドイツ語力が不十分だったマリドさんですが、ROBIJとリュグさんとの出会いによって、手に職をつけるチャンスが訪れたのです。「電気技師として十分な訓練を受ければ、多くのことができるようになります」とマリドさんは話します。

自身が経営する電気工事会社でキャリアデーを2回実施したヤン・シプリさん（チューリッヒ・グラタル・ロータリークラブ会員）は、若い難民が社会に溶け込むための一番の近道は、そこで仕事に就くことだと言います。

「できるだけ早くスイスでの新しい文化を学び、社会福祉による援助から独立することが重要」だとシプリさん。「仕事の説明を受けたときの若者たちの目は輝いていました」

もちろん、こうしたキャリア説明会は特に新しいものではありません。ROBIJは、自らを「架け橋」と考えています。

「各関係者のニーズや要望に着目し、うまく行っていないことや、誤解がある場合に助っ人となり、適切な人と結びつけてあげるのです」と説明するホプシュさんは、自身の仕事の時間の70%ほどをこのプロジェクトに捧げています。「私たちの主な仕事は、難民団体との信頼構築です。未成年である難民に対しては、これらの団体が特別な責任を負っています。私たちはまた、職能訓練を行う新しい会社を絶えず探しています」これまでの実績には、35社と28の難民団体およびROBIJに加盟する八つのロータリークラブによる無期限のパートナーシップを結んだこと、2020年3月までに10回のキャリアデーを実施し、190人の難民が参加したこと、そしてその結果、21人がインターンとして試用され、6人が見習いとして働くことになったことなどがあります（これには、ROBIJのキャリアデー参加後に若者たち自らが企画した実習は含まれていません）。最近では、チューリッヒ・ロータリークラブやほかの後援者の支援の下、研修用ビデオが制作されました。このビデオにより、言葉がわからない実習生にも、ナレーションやテキストを使わずにスキルや企業理念を教えることができます。

故郷の家族や友人に会えないのは寂しいけれど、一番大切なのは教育と生活の安定であり、その両方をスイスで見つけることができたこと、駆け出しの電気工であるマリドさんは話します。「キャリアの目標を叶え、できれば自分の店を開いてスイスのパスポートを取得したいです」

同じく電気工としての道を選んだエイドさんも、ROBIJによる3回のキャリアデーに出席し、見習いに70回応募し、10回の職場体験に参加。現在はネットワーク電気工の見習い2年目です。

「片言しか通じない私のためにROBIJの方々時間が割いてくださったことに、とても感謝しています」

今では20歳となったエイドさんは、資格試験に合格し、それを生かして工事現場で働いています。実習生として受け取る手当のおかげで、政府からの助成金に頼る必要もなくなりました。また、難民向け居住施設ではなく、今は共同アパートを借りて住んでいます。「スイスにとどまり、この仕事に役立ついろんな資格を取っていききたい」とエイドさんは話します。

## RI 会長からのメッセージ

2021年6月

2020年1月に「ロータリーは機会の扉を開く」という会長テーマを発表し、ロータリーには変化が必要だとお話しした際、これほど早くに変化の波が押し寄せるとは誰も思ってもみなかったことです。しかし、私は昔から困難を機会としてとらえてきました。今年、この新たな機会に、私たちはロータリーのあり方をふたたび模索しました。長年、ロータリーの柔軟性と適応性を高める方法を検討し、いくつか実験も行ってきましたが、今年は誰もが実験し、そして成功を収めたのです。オンライン会合は今やどのクラブでもと取り入れられ、クラブは世界中から例会にゲストを招いています。

世界中のロータリーファミリーと知り合うのを何より楽しみにしているスザンヌと私にとって、皆さまと直接顔を合わせてお会いできなかったこの1年はさみしいものでした。それでも、私にとっては新しいロータリー体験が得られる年となりました。世界中をバーチャルに旅したのです。こうならなければ出会えなかったはずの何千人ものロータリアンと出会うことができました。エバンストンの会長室に足を踏み入れなくても会長として任務を果たし、しかも旅費の節約にもなる新しい方法が見つかりました。

2020-21年度に私たちが出会ったのは、機転がきき、適応性が高く、創造的なロータリーでした。次の段階は、パンデミック以前のやり方に逆戻りすることではありません。先に進まなければならないのです。オンライン例会を通常形式とするなど、新しい活動方法や機会を提供するために、今年学んだことを活かしていきましょう。

クラブの力を保つためには、あらゆるレベルでロータリーをより若く、より多様にしていかなければなりません。多様性が意味するものは地域により異なりますが、ぜひあらゆる背景の人びとを会員として歓迎してください。また、女性会員を増やし、その役割を強化することもひとつの手立てです。

ローターアクトクラブを対等の存在としてみなすロータリアンが今では多くなったことは非常に喜ばしいことです。ロー

ターアクトクラブをあらゆる活動に招きいれて、今後もこの認識を広めていきましょう。若いリーダーに働きかける機会を無駄にすることなく、ローターアクトと連携して、数多くの新しいアプローチに取り組んでいきましょう。

ロータリーが新型コロナウイルスワクチンの公平な配布の呼びかけや誤情報との戦いなどを通じて予防接種キャンペーンを支援し、パンデミックと戦っていることを心から誇りに思います。一方、ポリオ根絶に向けて今後も全力で取り組んでいかなくてはなりません。そして今、環境問題という新しい重点分野に取り組む機会も誕生しました。

「ロータリーは機会の扉を開く」と初めて宣言したあの日と今日では、世界は大きく異なります。この1年でロータリーがこれほど大きく前進したことを誇りましょう。そして今後も前進を続けていく中で、クラブやクラブの仲間たちを大切にしていきたいと思います。ロータリーの命であり、さらなる繁栄をもたらしてくれる大切な存在です。この特別な年度、「超我の奉仕」の新たな意味を模索するこの年に、ロータリーに奉仕する機会が得られたことをスザンヌとともに感謝しています。ロータリーは、理念を実践する人びとのコミュニティだと思っています。この苦難の時に、奉仕をこれまで以上に重視しなければならないことは明らかです。今こそ、超我の奉仕がロータリアンにとって何を意味するかを世界に示す機会なのです。

世界を変えるためにロータリーが力を貸せる数多くの機会が今後も控えています。ともに手を伸ばし、さらなる高みに達するために機会の扉を開いていきましょう。扉を開いて新しい考えを受け入れれば、頭も心も開かれていくものです。私たちのすべての行動がどこかで誰かに機会をもたらすことをどうかお忘れなく。

ホルガー・クナーク  
2020-21年度会長

### 次回〈7月2日〉の予定

新年度挨拶  
会長、副会長、会長エレクト、幹事、会計

## 例会4回

## 5月度出席報告

名誉会員 出席率算出除外会員

会 員	メークアップ	ホームクラブ	会 員	メークアップ	ホームクラブ	会 員	メークアップ	ホームクラブ	会 員	メークアップ	ホームクラブ
青柳 紀	100	100	加藤 仁昭	200	75	田邊 正彦	50	25	山本 芳弘	150	100
赤堀 和人	150	75	金森 欣一	125	100	月山 勇	125	100	横溝 亘	175	100
朝日 達夫	0	0	加野 亮一	125	75	角田 伯雄	100	75	吉田 隆男	225	100
天野 公史	150	100	北村 大輔	125	100	友添 辰哉	150	100	吉橋佐千男	0	0
飯田 泰之	100	100	小池 将夫	100	50	中野 真理	75	75	我妻 隆邦	0	0
池田 広樹	125	100	河野 明光	100	100	西山 潔	100	75	渡邊 淳	125	100
池宮 寿治	75	75	小山 市康	225	100	馬場 佳子	200	100	富居 利貞	0	0
石井亜由美	75	75	佐藤 勝彦	125	100	古澤 一憲	100	100			
石川 正三	75	75	清水 茂夫	100	100	茂木 知子	75	75			
伊東 英紀	100	100	白井 康夫	25	0	森永 健	125	100			
岩澤 利雄	100	100	白鳥 厚夫	175	100	矢野 修二	175	100			
植田 清司	125	100	須永 久一	75	75	山本 幹夫	100	100			
鴻 義久	100	100	角野 弘幸	100	100	山崎 善也	75	75			
大橋 秀行	0	0	田口健太郎	125	100	山田 正憲	100	75			
岡部雄一郎	125	100	田中龍太郎	100	75	山本 登	100	75			

月平均 91.60%